

令和7年度 学校経営計画・学校評価

■4月8日(火)提出

■10月2日(木)提出

■3月13日(金)提出

学校番号	31	須崎総合	高等学校	課程	定
------	----	------	------	----	---

高知県の教育の基本理念	(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3) 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	スクール・ミッション	様々な生活スタイルや学習のニーズを持つ生徒に対応し、主体性や社会性を育成するとともに、生徒一人一人の多様な進路実現を図る。  県中部の定時制高校として、様々なニーズのある生徒を支援し、きめ細かな学習活動や探究活動、キャリア教育の充実を図ることで社会性を育み、地域社会に貢献できる人材を育成する。
スクール・ポリシー	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ○ つまずきの経験があっても、それを自立に向けた経験にして成長したいと考えている生徒を募集します。 ○ 場に応じた適切な行動をすることができ、社会や学校で定められているルールを守ることができる生徒を募集します。 ○ 仕事などに就きながら、社会で生きていくために自らの進路を切り拓こうとする生徒を求めています。  【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○ 基礎的・基本的な知識・技能の習得とそれらを活用する力を育てます。 ○ 自ら課題を発見し解決しようとする力、他者と協働して課題を解決していく力を育てます。 ○ 地域の一員として社会に貢献する力を育てます。	【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針)  ○ 豊かな人間性や社会性の涵養、社会的・職業的な自立をめざした科目を編成します。 ○ 生徒一人一人の学習や進路などの目標の実現に伝えられるよう授業を行います。 ○ 学年を超えた集団の中で、自分で考えて行動することや、周囲の仲間を尊重し物事を進めていくことでコミュニケーション能力などのソーシャルスキルを向上させ、地域社会に貢献する人材を育成するよう取り組みます。	

学校関係者評価	
【学力の向上】 評価	【 B 】
授業の振り返りや学習習慣を育てる取り組みなどを通して、定時制に通う生徒一人一人が確かな学力と将来にわたって学び続ける意欲が身につくよう細やかで熱心な指導が行われている。これからは定時制に集う生徒に対し手厚い支援をお願いしたい。	
【社会性の育成】 評価	【 A 】
体験活動や大学・専門学校・企業訪問、修学旅行などを通じて、定時制に通う生徒の社会性の育成と自己肯定感の醸成に尽力している。活動に対する経済的な面では学校としての限界もあろうが、更なる工夫で生徒支援を進めてほしい。	
【チーム学校】 評価	【 A 】
低学力や不登校経験、学び直しの意思のある生徒を受け入れ、一人一人に寄り添い高校卒業や卒業後の進路につながる支援を行っている。何より先生方の顔つきが優しい。地域の学校としてなくてはならない存在であり、今後もその取組に期待する。	

(評価)A: 目標を十分に達成 B: 目標をほぼ達成 C: やや不十分 D: 不十分

重点項目	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
重点項目	★確かな学力 ○基礎となる知識・技能 ○思考力、判断力、表現力 ○生涯にわたって学び続ける意欲 ★自己の将来とのつながりを見通した学び ○社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 ○キャリアデザイン力(やりぬく力)	○学校の授業がよく理解できている生徒(高知県オリジナルアンケートR6年度4月:83.3%→R7年度11月 目標:88.9%) ○将来の可能性を広げるために勉強をがんばっている生徒(同アンケートR6年度4月:77.8%→R7年度11月 目標:83.3%)	○定期考査後や長期休業中にステップアップ講座を開講し、授業の振り返りと基礎的知識や物事の考え方の定着を図る ○授業以外での学習習慣を育てる施策(トライベスト)を定着させる ○進路実現に向けた計画的な取組を推進する	A ○学校の授業がよく理解できている生徒(同アンケートR7年度第1回6月13日実施:88.2%) ○将来の可能性を広げるために勉強をがんばっている生徒(同アンケートR7第1回:88.2%)	○高校入学前の学習環境を意識し、授業プリントや定期考査問題にルビを振るなど生徒にとってわかりやすい授業をデザインする。 ○トライベストの学習内容に情報や時事問題等を加え、さらなる取組意欲の向上を目指す。	B ○学校の授業がよく理解できている生徒(同アンケートR7年度第2回11月7日実施:80.0%) 目標未達8.9ポイント減 ○将来の可能性を広げるために勉強をがんばっている生徒(同アンケートR7第2回:80.0%) 目標未達3.3ポイント減	○生徒の学習活動に対する苦手意識を克服させる指導 ○生徒の将来の目標をステップで設定し、一つずつ達成させる指導 ○学習内容を振り返る時間の確保
	★豊かな心、多様性・包摂性の尊重 ○豊かな人間性・道徳性・社会性 ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	○自分という存在を大切に思える生徒(同アンケートR6年度4月:77.8%→R7年度11月 目標:83.3%) ○立場や年齢、考え方の異なる相手でも、その意見を聞き、理解しようとする生徒(同アンケートR6年度4月:100%→R7年度11月 目標:100%)	○仲間づくりのための学校行事等の確保 ○県生徒生活体験発表会参加に向けた取組の強化	B ○自分という存在を大切に思える生徒(同アンケートR7第1回:70.6%) ○立場や年齢、考え方の異なる相手でも、その意見を聞き、理解しようとする生徒(同アンケートR7第1回:100%)	○修学旅行など生徒の自主性を育む活動を支援する。 ○学習成果物を共有スペースに展示し、自身の成果物とともに仲間の成果物と一緒に鑑賞し振り返ること、豊かな心と多様性を育む。	B ○自分という存在を大切に思える生徒(同アンケートR7第2回:73.3%) 目標未達10ポイント減 ○立場や年齢、考え方の異なる相手でも、その意見を聞き、理解しようとする生徒(同アンケートR7第2回:100%) 目標達成	○仲間と協働する活動の充実
取組項目	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	○地域や社会をよくするために何をすべきか考える生徒(同アンケートR6年度4月:61.1%→R7年度11月 目標:72.2%)	○県内大学・専門学校・企業を中心とした学校訪問・企業見学の実施 ○総合的な探究の時間における探究活動「変化していく環境と私たちの生活(1年)」「災害への備え(2年)」「よりよく生きる(3年)」	B ○地域や社会をよくするために何をすべきか考える生徒(同アンケートR7第1回:58.8%)	○企業見学先で撮影した写真や作成したレポートを共有スペースに展示し、地域の課題や需要を振り返り、自立と社会参画に必要な資質・能力の獲得を目指す。	C ○地域や社会をよくするために何をすべきか考える生徒(同アンケートR7第2回:46.7%) 目標未達25.5ポイント減 →学習が進むなかアンケート直前の10月に首都圏へ修学旅行を実施し、多くを見聞き体験したことで肯定的回答が一時的に減少した。	○校外活動の充実と実施時期の最適化 ○夜間定時制高校として活動時間帯の検討
	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	○テレビのニュース、新聞、ウェブサイトやSNSを通じて、地域や社会の出来事に関する情報を得ている生徒(同アンケートR6年度4月:83.3%→R7年度11月 目標:88.9%)	○情報機器の活用が進むよう、授業展開を工夫する。 ○地域や社会を学ぶための学校行事等の企画	C ○テレビのニュース、新聞、ウェブサイトやSNSを通じて、地域や社会の出来事に関する情報を得ている生徒(同アンケートR7第1回:41.2%)	○タブレット端末等を用いて各教科に登場するコンテンツ、特に高知県や地元市町村に関連するものを意識させることで実社会での課題に気付かせ、情報活用能力の向上を図る。	B ○テレビのニュース、新聞、ウェブサイトやSNSを通じて、地域や社会の出来事に関する情報を得ている生徒(同アンケートR7第2回:86.7%) 目標未達2.2ポイント減	○学校行事の充実と実施時期の最適化

チーム学校	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
チーム学校	★学校の魅力化・特色化 ○学校の特色や活動を発信する ○外部諸機関との良好な関係構築を図る	○地元中学校・市町担当者等との情報共有・情報交換の継続実施(年3回以上) ○学校生活が充実している生徒(同アンケートR6年度4月:94.4%→R7年度11月 目標:100%) ○クラスで安心して過ごすことができる生徒(同アンケートR6年度4月:100%→R7年度11月 目標:100%)	○地元中学校・市町担当者等と互いの情報を共有・交換する場を設定する。 ○須崎総合高等学校定時制教育振興会を通じて地元市町村教育長等と意見交換を行い、良好な関係構築を図る。 ○各学期毎に生徒支援会を実施、SC・SSWによる生徒全員の面談を実施する。	A ○地元市町担当者等との情報共有・情報交換の継続実施(月1回以上) ○学校生活が充実している生徒(同アンケートR7第1回:100%) ○クラスで安心して過ごすことができる生徒(同アンケートR7第1回:100%)	○保護者等と一緒に参加し活動する学校行事を検討する。 ○定時制入学を検討する中学生と保護者及び中学校教員に対し、授業風景を含めた学校見学を実施する。	B ○地元市町担当者等との情報共有・情報交換の継続実施(12回実施) 目標達成 ○学校生活が充実している生徒(同アンケートR7第2回:93.3%) 目標未達6.7ポイント減 ○クラスで安心して過ごすことができる生徒(同アンケートR7第2回:86.7%) 目標未達13.3ポイント減	○生徒が落ち着いて学びに向かう環境の維持
	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○全定合同の研修・交流機会の拡大、ストレスの少ない職場づくり ○校内研修(年5回以上開催、不祥事防止月間を6月に設定)、不祥事防止委員会(月1回以上開催) ○年間不祥事0件の継続	○複数でのチェック体制を継続して取り組む ○日頃から、生徒・保護者等・教職員との信頼関係を築くよう留意する。 ○お互いが注意し合うことを躊躇したり、見てみぬふりをしてしまったりすることがないように努める。	A ○全定合同の研修・交流を実施、ストレスの少ない職場づくり(9月末時点で4回実施) ○校内研修(9月末時点で全定合同含め5回開催、不祥事防止月間を6月に設定)、不祥事防止委員会(9月末時点で6回開催) ○年間不祥事0件の継続(9月末時点)	○教員間で生徒の日々の様子や授業態度を報告し合う風土を、中間評価後も継続する。	A ○最終面談にて個々の不祥事への意識の確認 ○校内研修(全定合同含め8回開催、不祥事防止月間を年2回設定)、不祥事防止委員会(13回開催) ○年間不祥事0件の継続	○互いに声かけを行い、気づきを伝え、助け合える環境の維持
	★長時間勤務の解消 ○単年度で終わることのない持続的な学校教育の実現を念頭に、既存業務のスリム化を図る	○月45時間を超える時間外勤務を行った教職員(R6年度なし→R7年度なし) ○学校行事の精選による勤務体系の適正化 ○労働安全に係る衛生委員会の適時開催	○個人プレーに依存するのではなく組織で動く。 ○個々の業務分担の平準化を図る。 ○生徒支援における専門機関との連携を強化する。 ○学校閉庁日を設定する。	A ○月45時間を超える時間外勤務を行った教職員なし ○労働安全に係る衛生委員会の開催(9月末時点で6回開催)	○教員間で準備や片付け等に気づき助け合える風土を、中間評価後も継続する。	A ○月45時間を超える時間外勤務を行った教職員なし ○労働安全に係る衛生委員会の開催(12回開催)	○互いに声かけを行い、助け合える環境の維持